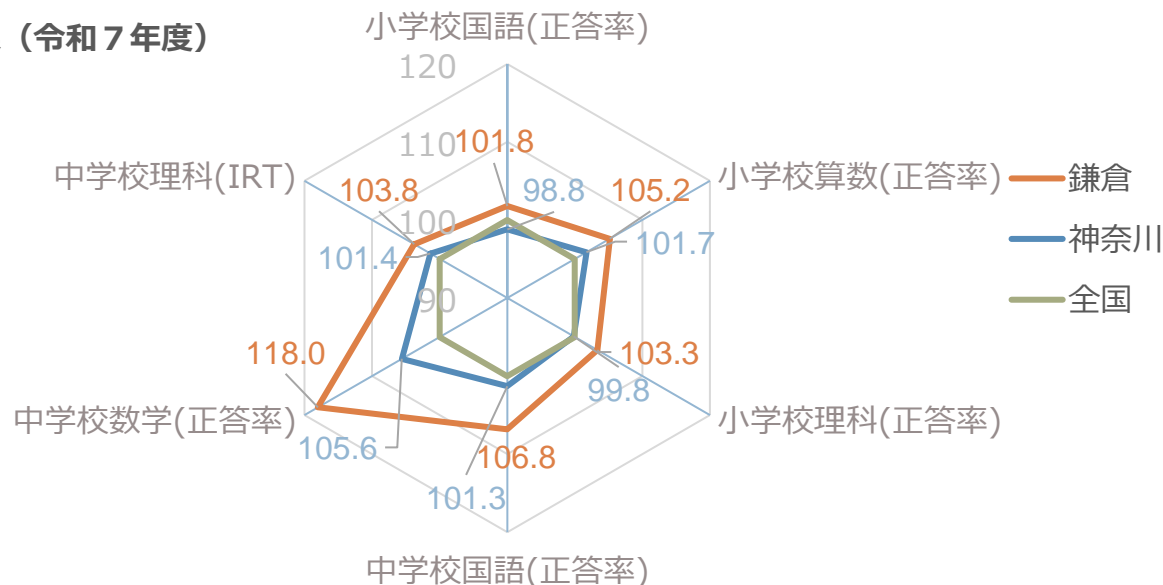


教科別のレーダーチャート①

- 鎌倉市の児童の学力は全国・神奈川県と比較してやや高い水準にある。また、生徒の学力も高い水準にあり、特に数学においては非常に高い値である。バランスのよい基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が継続的に図られていると考えられる。

教科別全国学力調査結果（令和7年度）



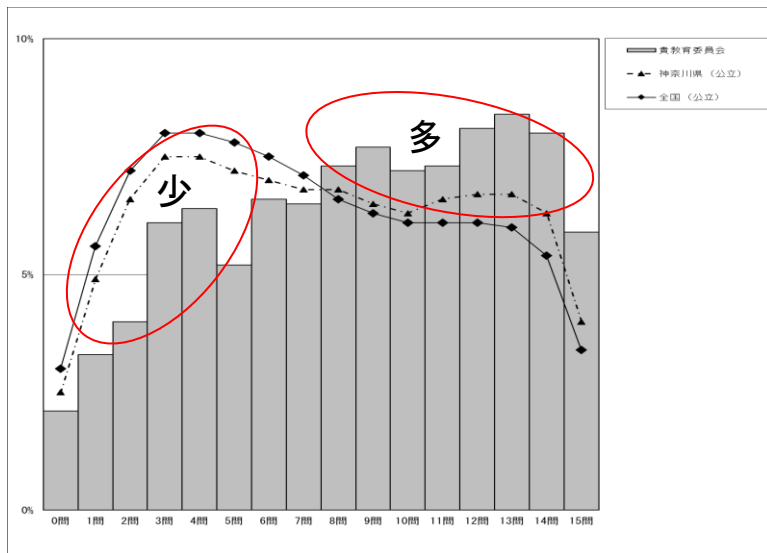
得点分布からの分析（中学）

- 鎌倉市の中学生は数学、理科において高得点者の割合が高く、低得点者の割合が低い。学力は定着していることが窺える。

数学

正答数分布グラフ

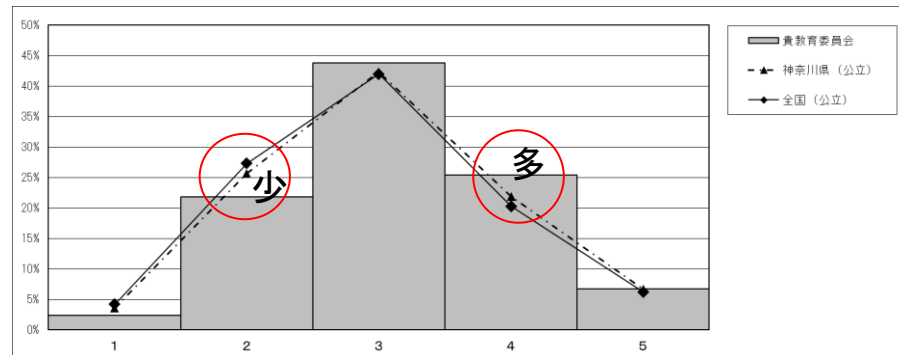
（横軸：正答数 縦軸：割合）



理科

IRTバンド分布グラフ

（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）

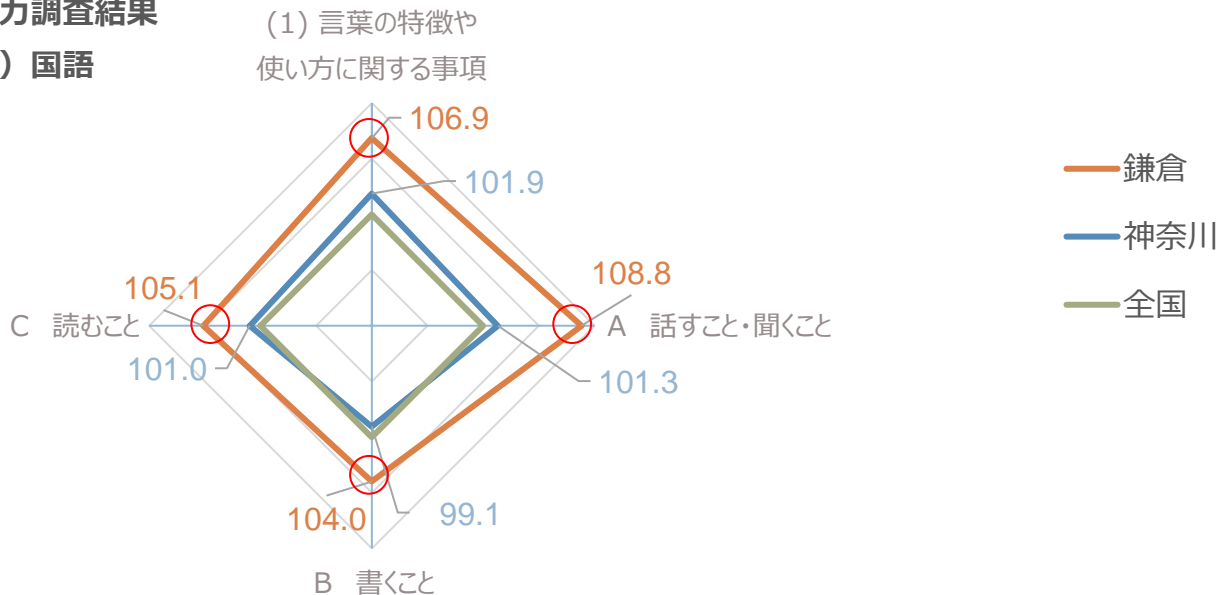


中学校教科別のレーダーチャート①（国語）

- 国語では鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較してほぼすべての分野で得点が高い。各分野においてバランスよく学習に取り組んでいる。

教科別全国学力調査結果

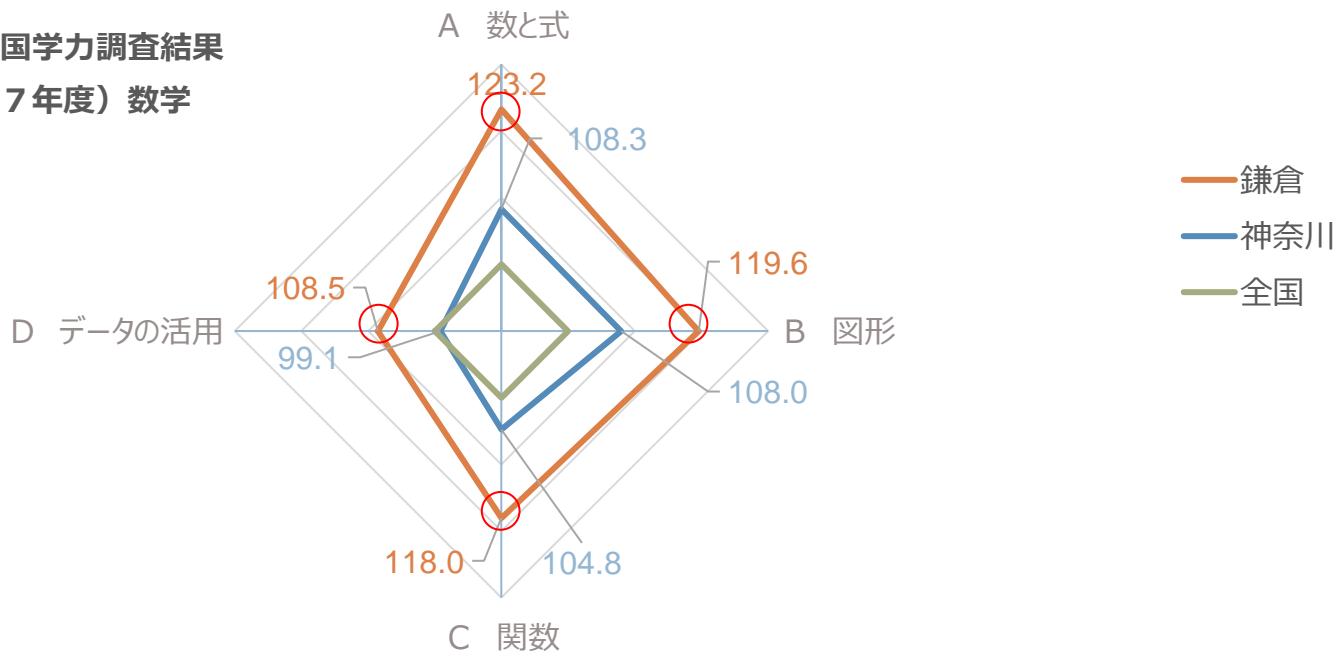
（令和7年度）国語



中学校教科別のレーダーチャート②（数学）

- 数学では鎌倉市の中学生は全国・神奈川県と比較して全体的に得点が高く、数と式の得点が高特に高い。今後も学習内容を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫改善を進めていく。

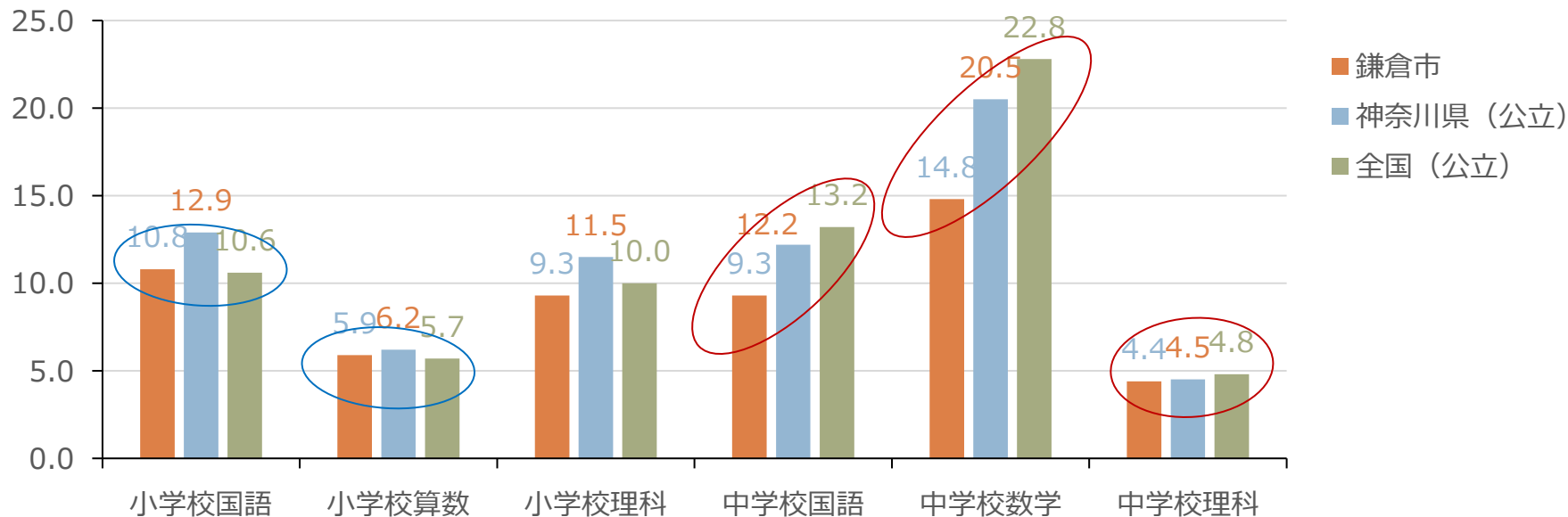
教科別全国学力調査結果
(令和7年度) 数学



活用問題における無回答率の状況

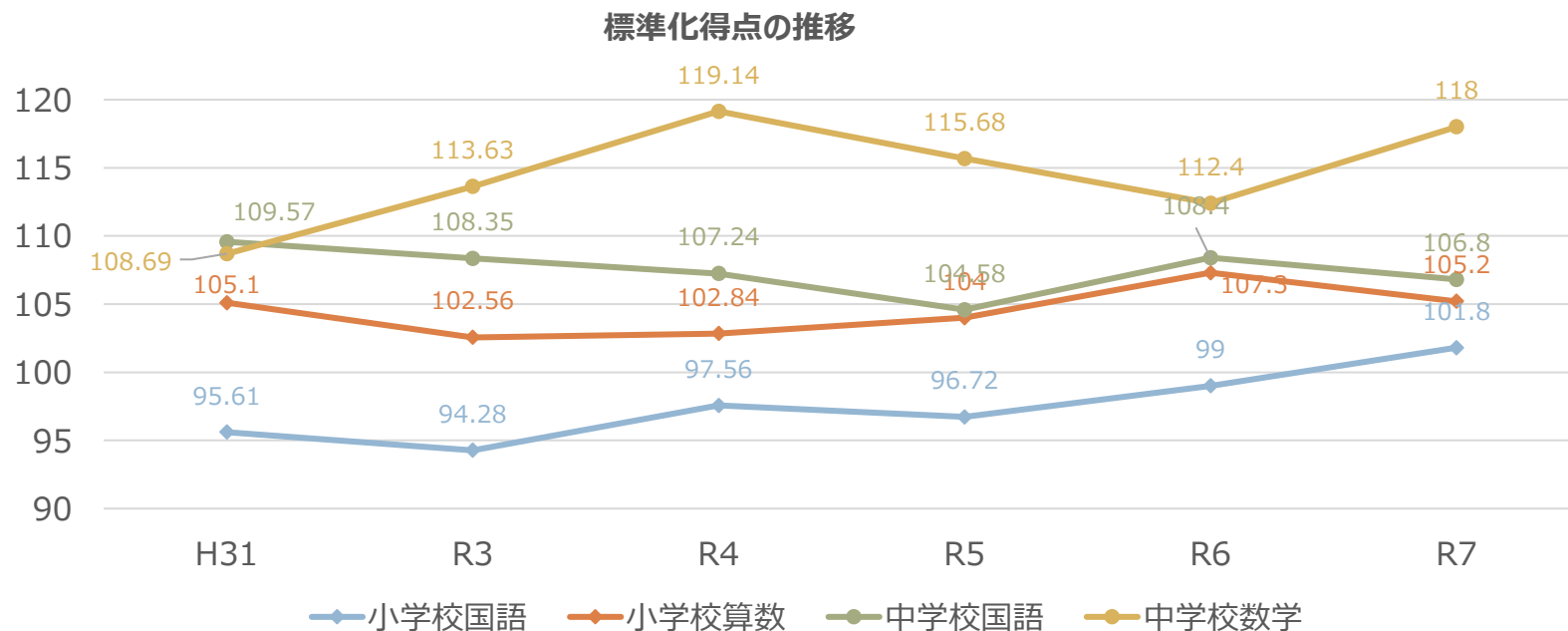
- 小学校国語、算数で無回答率が全国・県に比べやや高いが、中学生は全教科で無回答率が低くなっている。問題の内容を理解できていない児童が多くいることも考えられるので、一人一人をよく見取り、指導に生かしていくことが必要である。

記述式問題における無回答率の割合（％）



標準化得点(全国平均を100とした場合の鎌倉市の児童生徒の得点)の推移

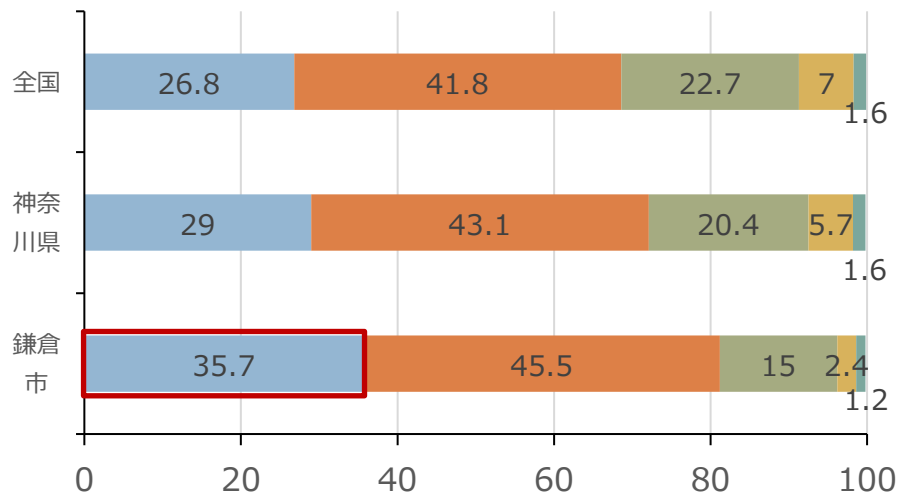
- どの教科も全国平均を上回った。引き続き、基礎学力の定着と思考力・活用力をバランスよく伸ばせるよう丁寧な指導を行っていきたい。



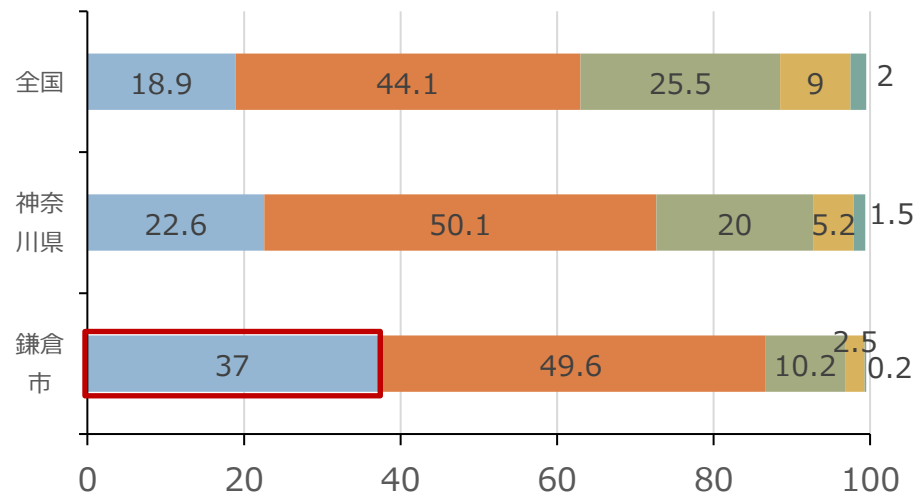
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況①

- 小中学生ともに、「当てはまる」と回答した割合が高い。児童生徒が主体となり、対話的な授業を引き続き充実させていくことが大切である。

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか（小学生）（%）



自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか（中学生）（%）

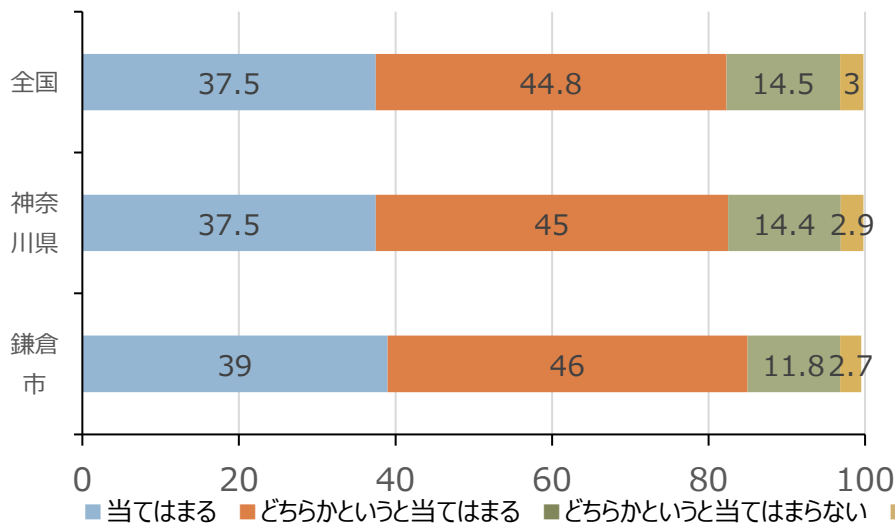


■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかという当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 考えを発表する機会がなかった

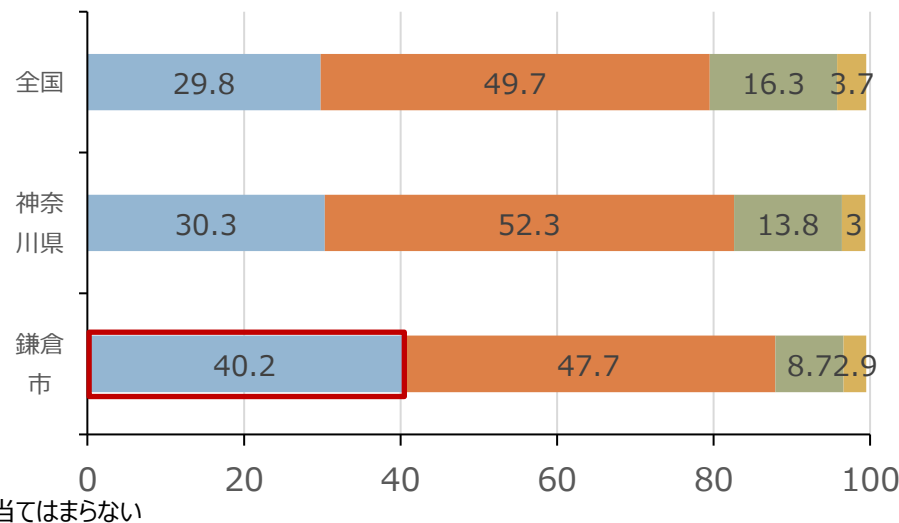
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の状況②

- 中学生では全国・神奈川県と比べて「当てはまる」と回答した割合が高い。主体的に取り組む学習活動が定着してきている。今後も引き続き充実した学習の時間の確保に努めていく。

総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（小学生）（%）



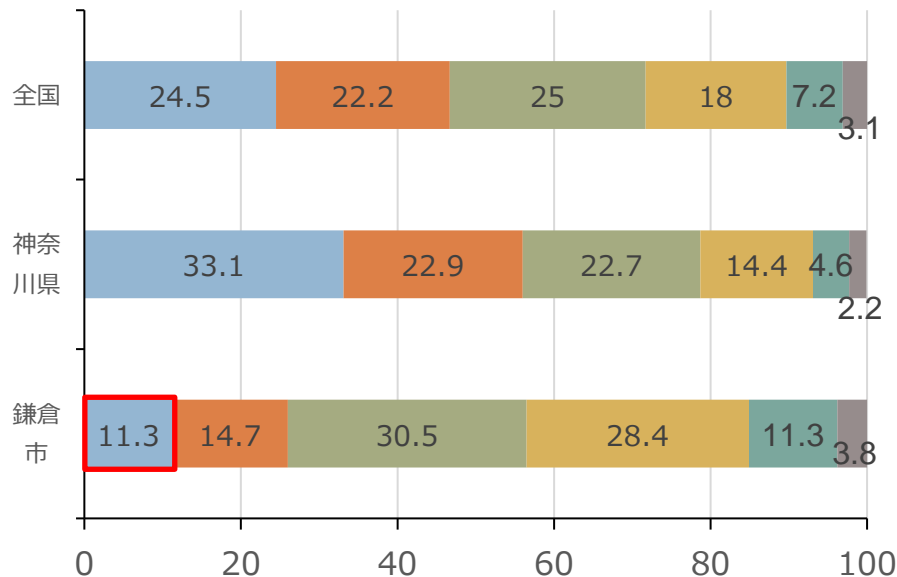
総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（中学生）（%）



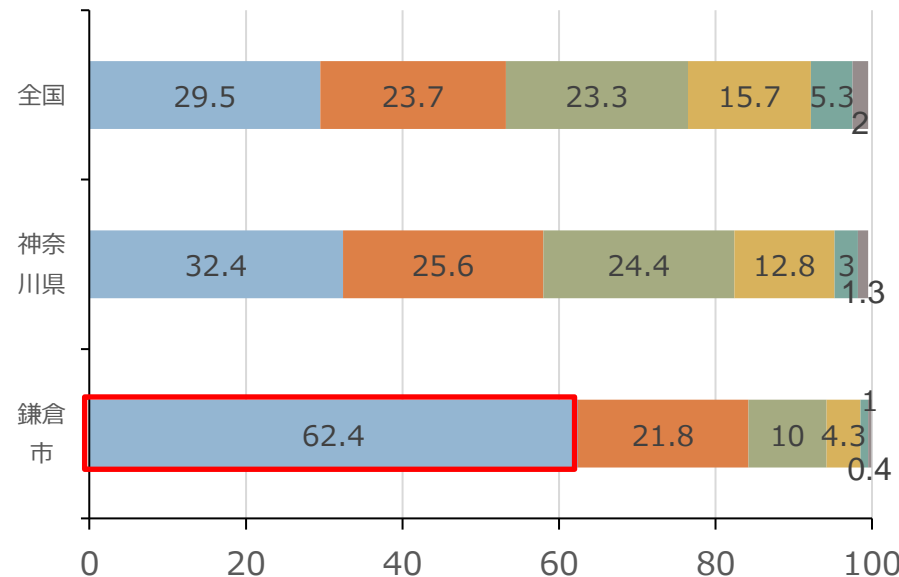
授業におけるICT活用の状況（子ども視点）

- 小学校ではほぼ毎日ICTを活用すると回答した割合が神奈川県・全国値と比較して低い一方で、中学校では約半数の生徒が活用すると回答し、積極的に授業で活用されていることが窺える。引き続き小学校でのICTの有効活用方法を検討していく。

小学校の授業におけるICT活用の状況（％）



中学校の授業におけるICT活用の状況（％）

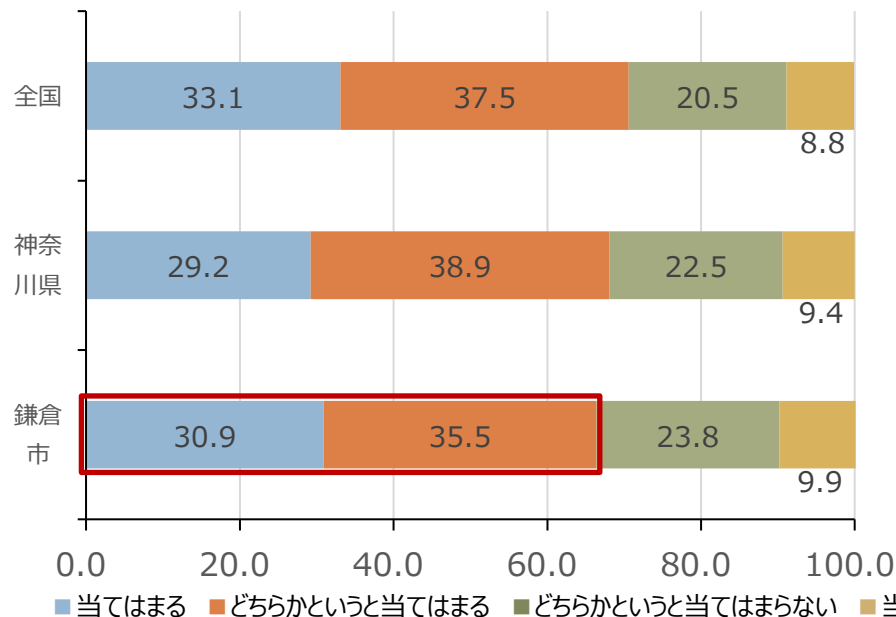


■ ほぼ毎日(複数回) ■ ほぼ毎日(1回) ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

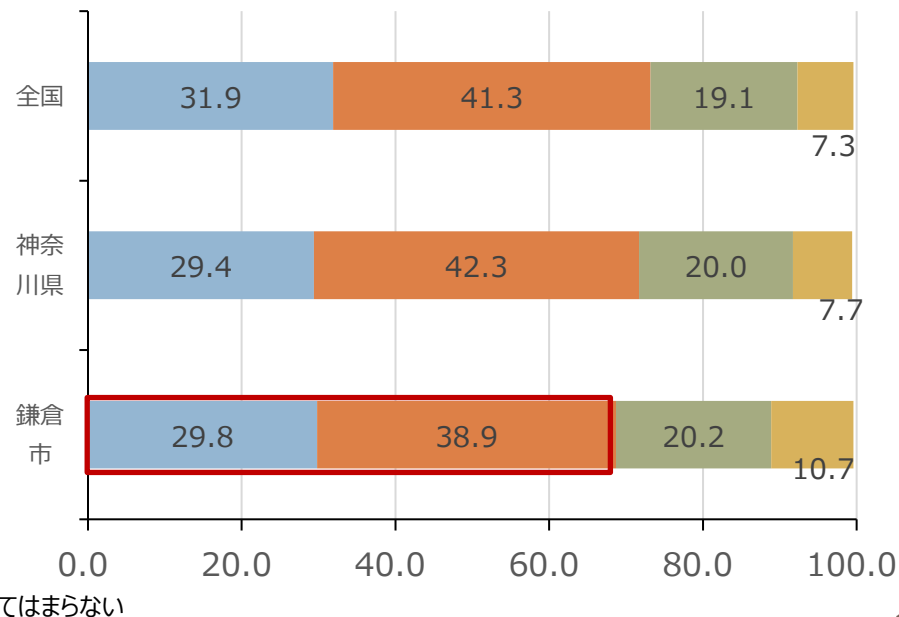
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答える子ども

- 「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも低いが、昨年度よりも増加している。引き続き、子どもと向き合う時間の確保や支援体制を改善していく。

できると回答した児童の割合（％）（小学生）



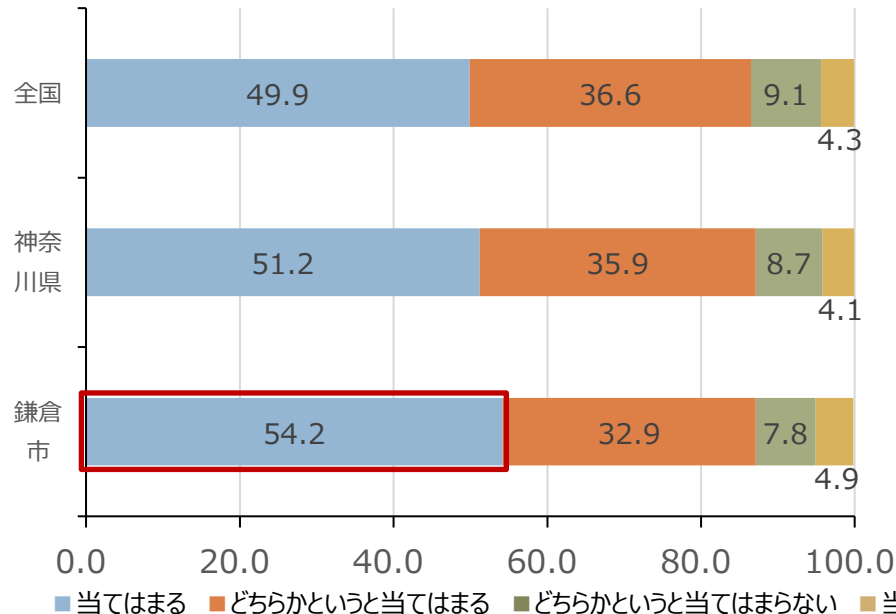
できると回答した生徒の割合（％）（中学生）



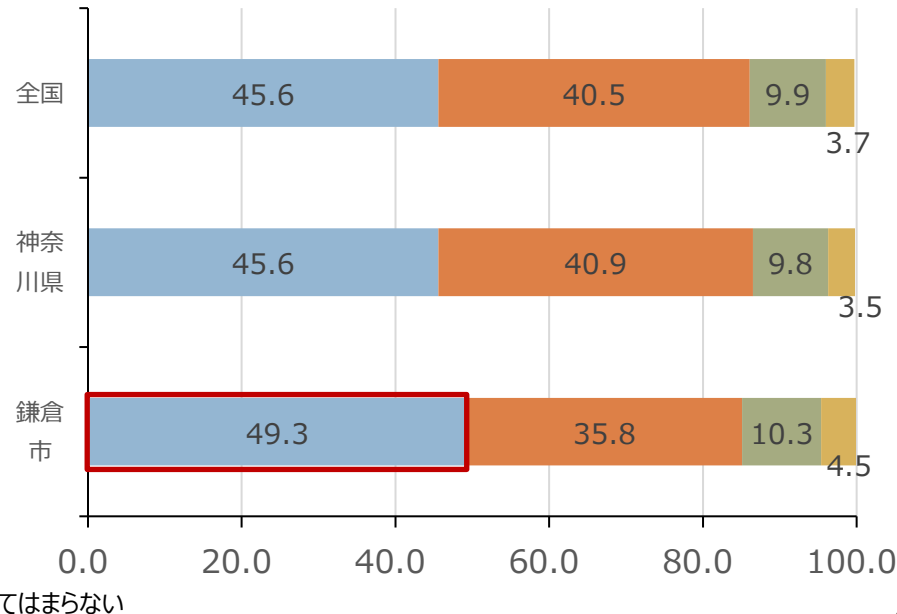
学校に行くのは楽しいと答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合を若干上回った。一方で「当てはまらない」「どちらかという当てはまらない」と回答した児童生徒も1割以上いることから、一人ひとりの見取りをさらに充実させていく必要がある。

楽しいと回答した児童の割合（％）（小学生）



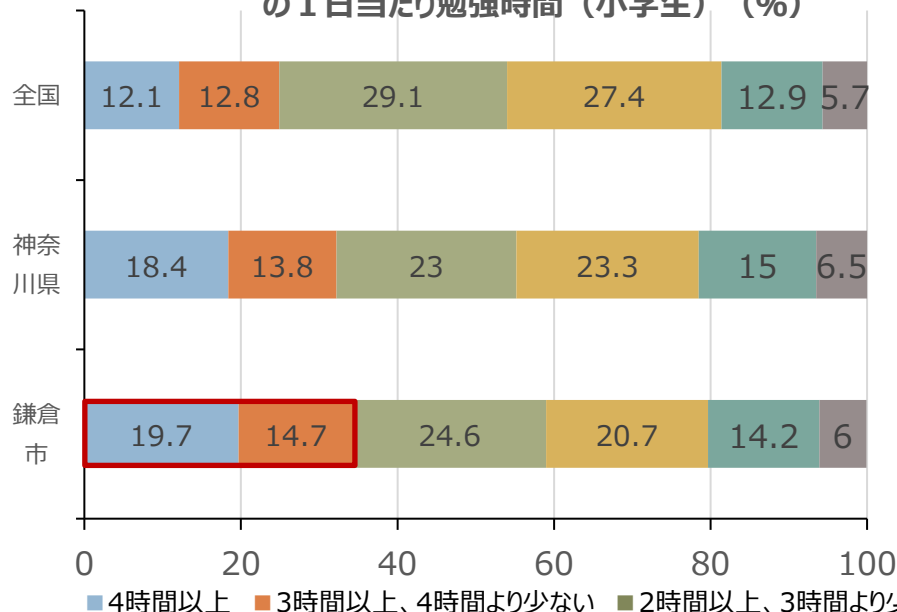
楽しいと回答した生徒の割合（％）（中学生）



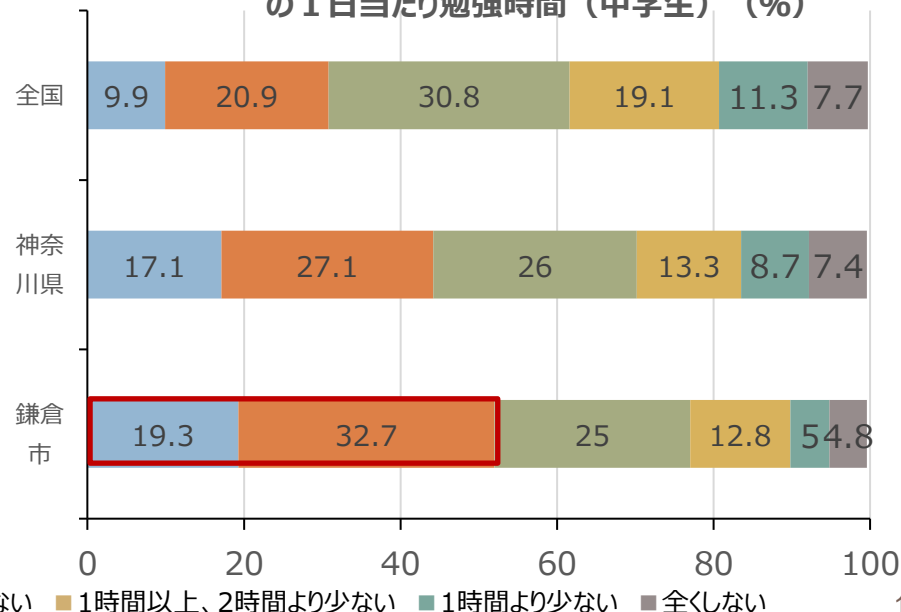
家庭での学習習慣の確立

- 小中学校ともに、1日当たり3時間以上勉強している児童生徒の割合が、全国・神奈川県と比較して高い。学習習慣が確立している点が窺える。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、
の1日当たり勉強時間（小学生）（%）



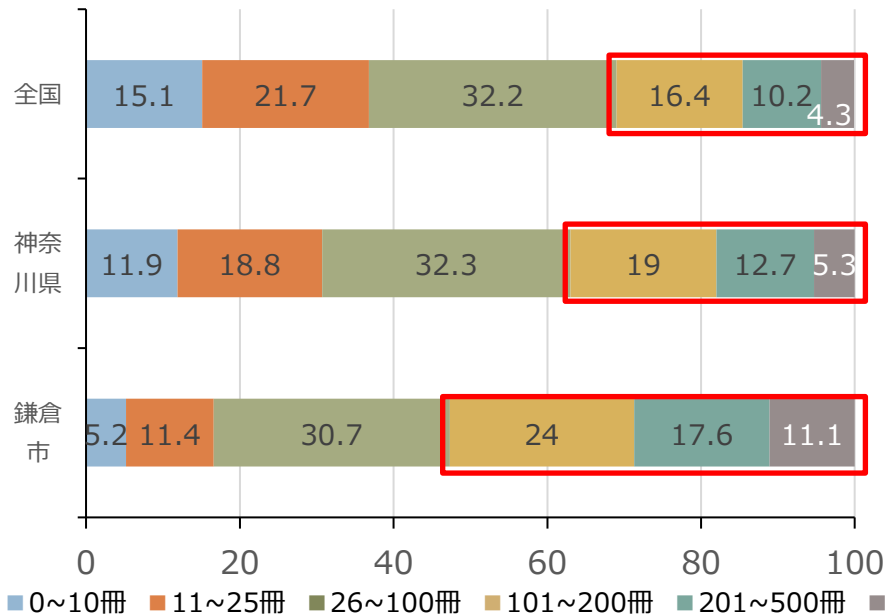
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、
の1日当たり勉強時間（中学生）（%）



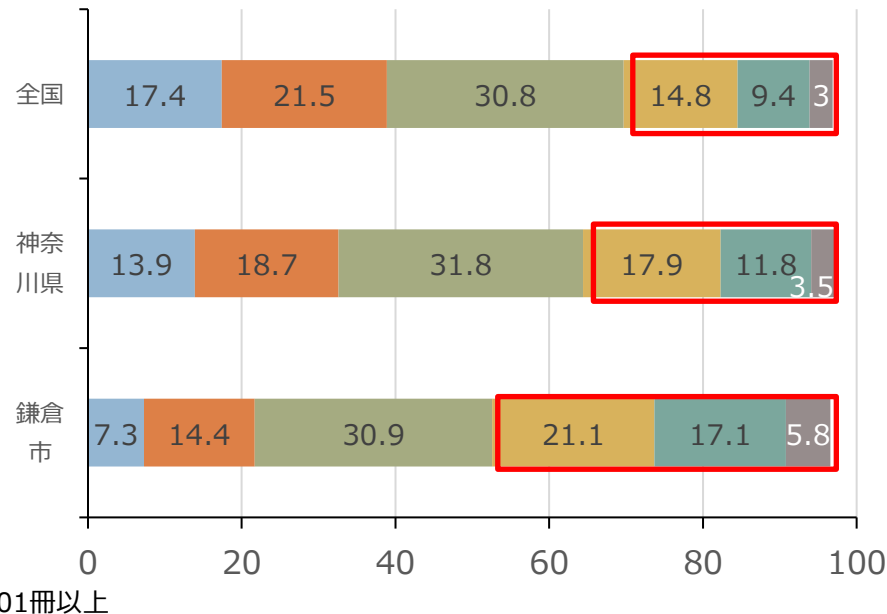
本と触れられる環境の充実

- 小学校、中学校ともに家庭における本の冊数が「101～200冊」「201冊～500冊」「501冊以上」と回答した割合が神奈川県・全国と比較して多く、日常から多くの本に触れていることが窺える。

小学校における家庭での保有本冊数（％）



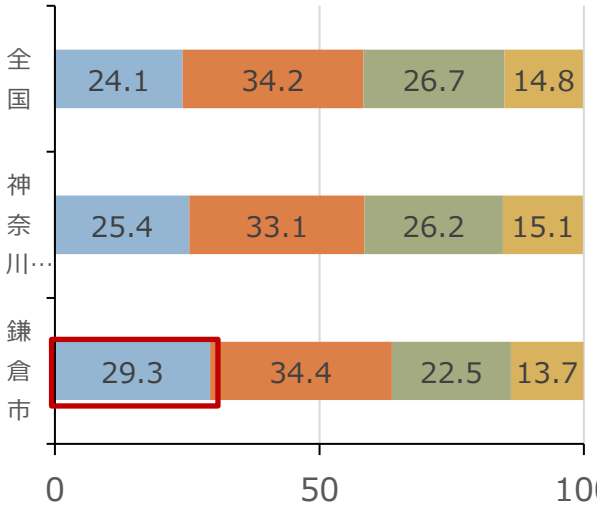
中学校における家庭での保有本冊数（％）



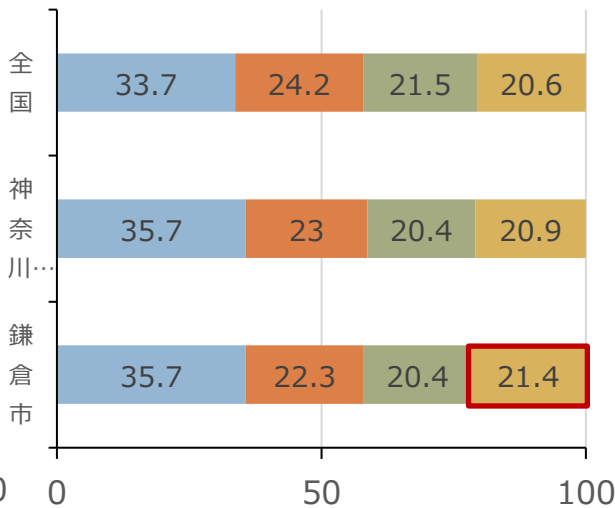
勉強が「好き」と答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりもやや高い。一方で、算数と理科では「当てはまらない」と回答した児童の割合も全国と比較して高い。

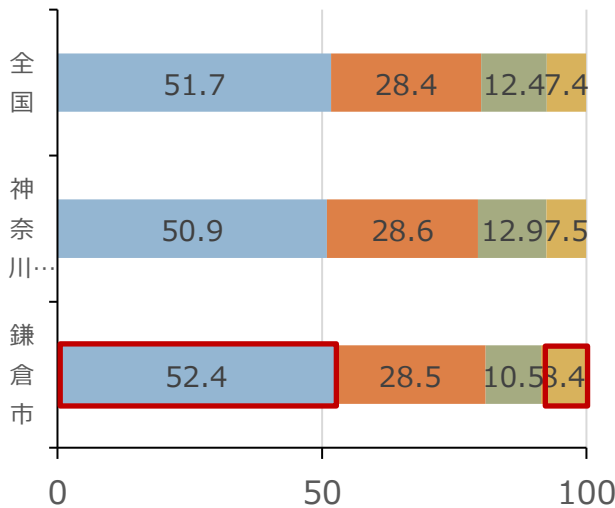
国語を好きと回答した割合（％）



算数を好きと回答した割合（％）



理科を好きと回答した割合（％）

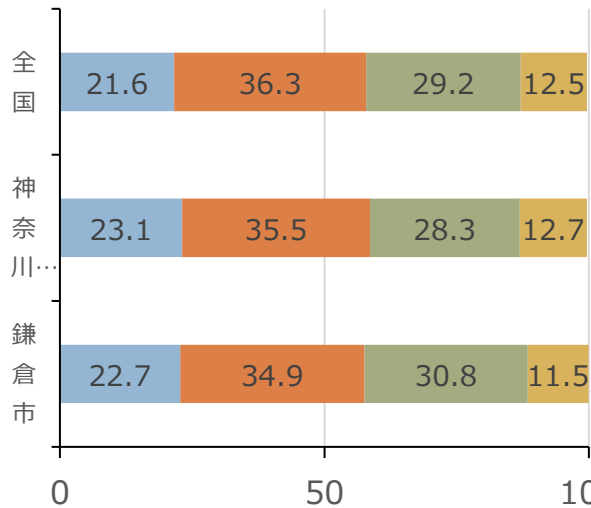


■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかという当てはまらない ■ 当てはまらない

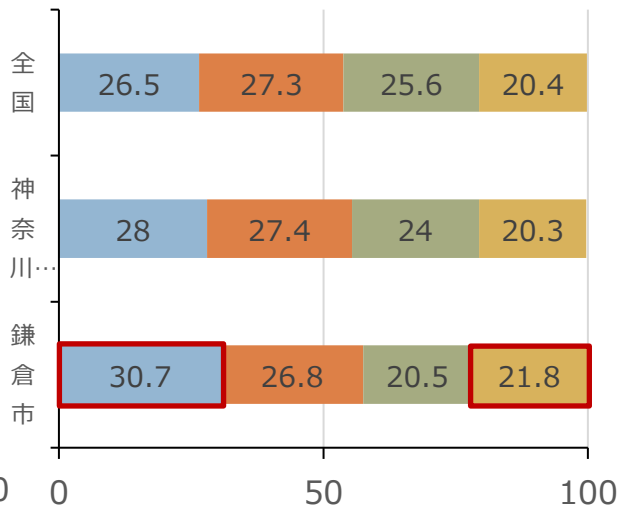
勉強が「好き」と答える子ども

- 数学の「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりもやや高い。一方で、数学、理科において「当てはまらない」と回答した生徒の割合が全国及び神奈川県回答割合と比較して高い。

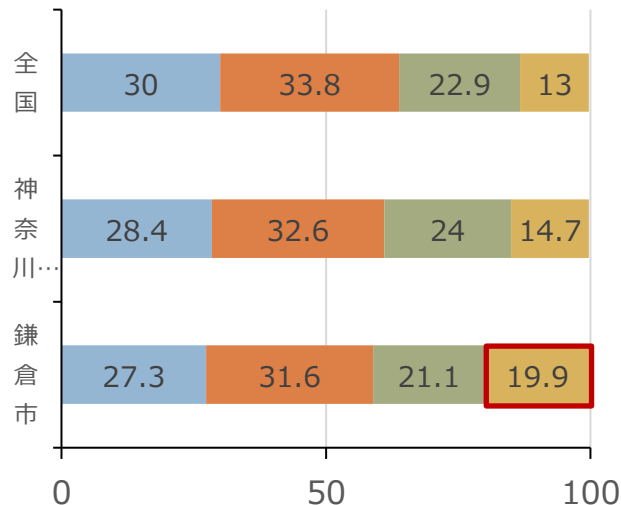
国語を好きと回答した割合（％）



数学を好きと回答した割合（％）



理科を好きと回答した割合（％）

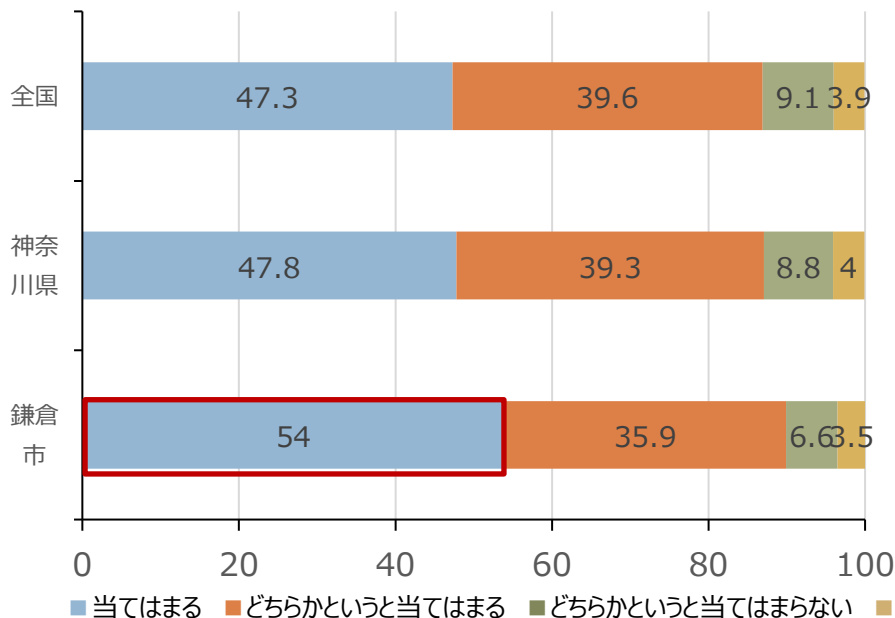


■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかという当てはまらない ■ 当てはまらない

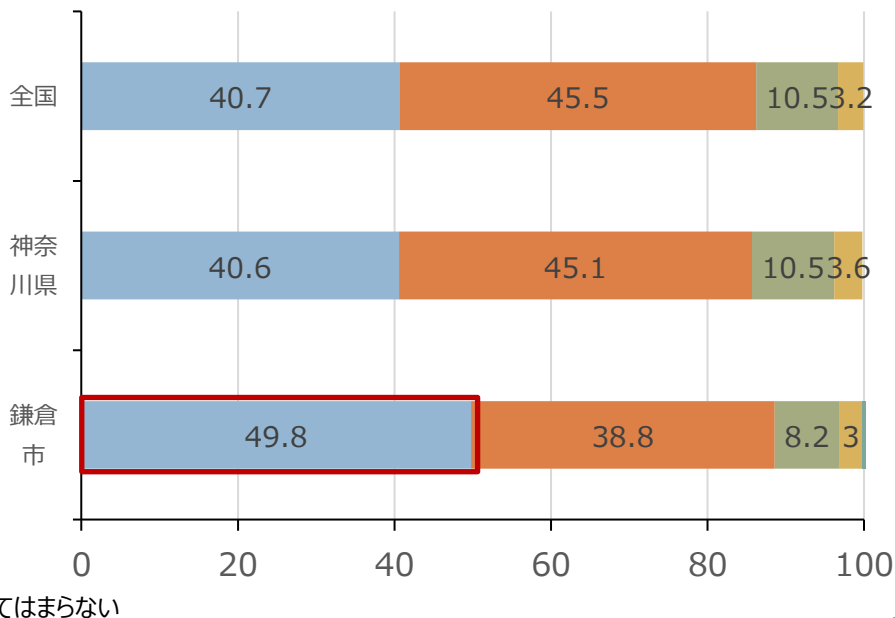
「自分にはよいところがある」と思う子ども（全国比較）

- 小中学校いずれも、「自分にはよいところがある」に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国・神奈川県と比較して高い。

「自分にはよいところがある」と思う小学生の割合（％）



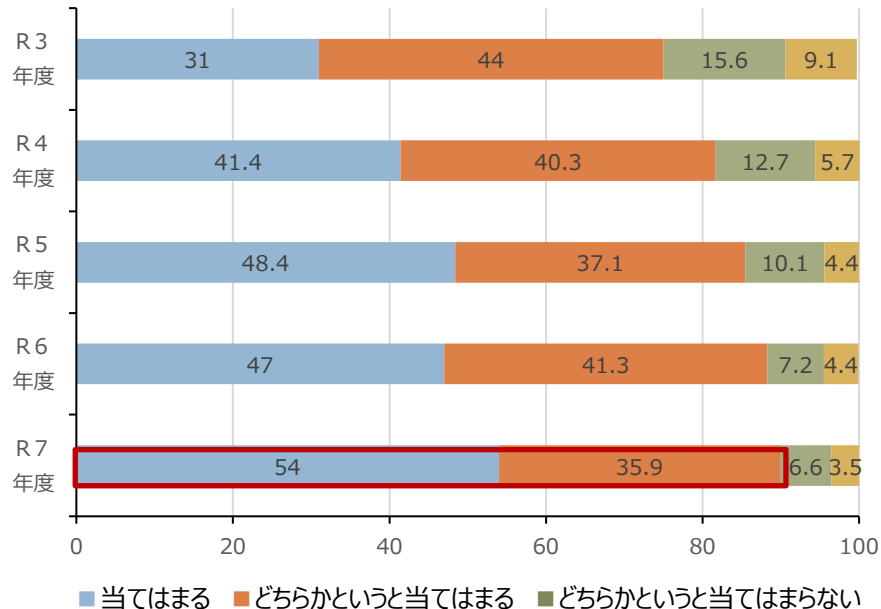
「自分にはよいところがある」と思う中学生の割合（％）



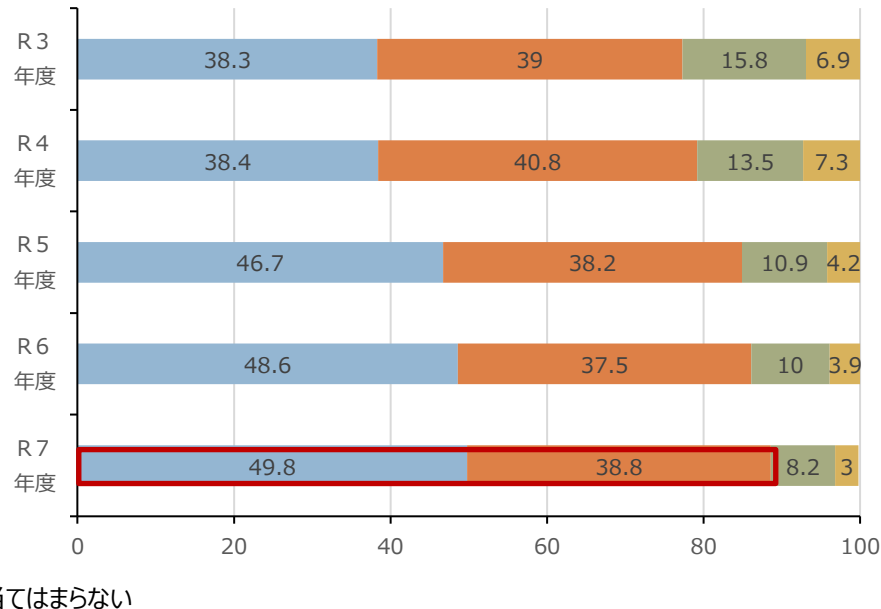
「自分にはよいところがある」と思う子どもの割合（経年比較）

- 「自分にはよいところがある」に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、高まっている。引き続き自己肯定感の向上につながる指導に努めたい。

「自分にはよいところがある」と思う小学生の割合（％）



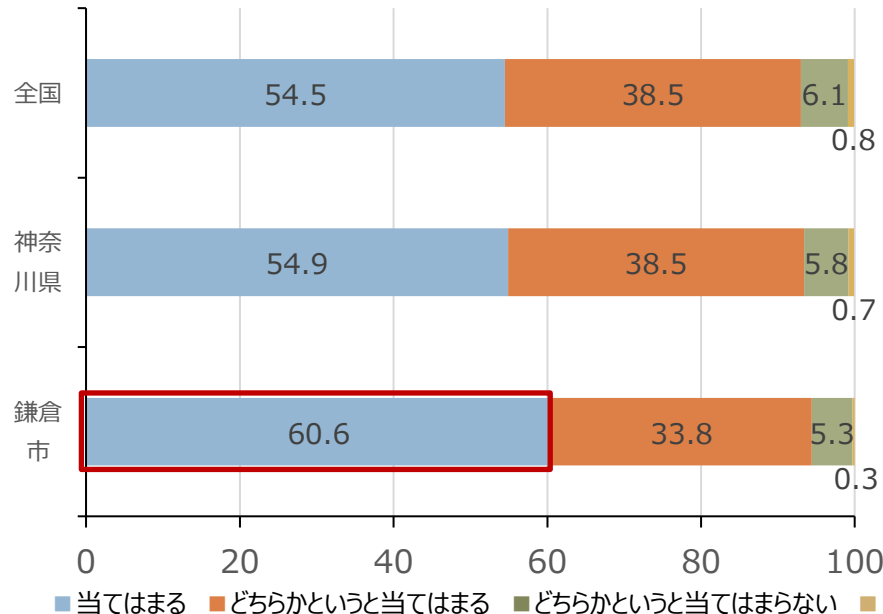
「自分にはよいところがある」と思う中学生の割合（％）



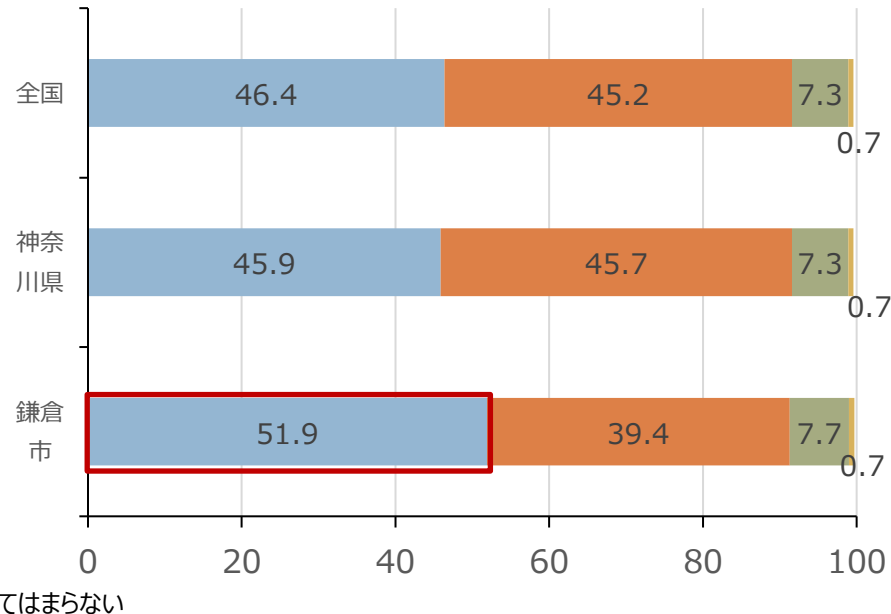
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国及び神奈川県回答割合よりも高い点
が特徴。引き続き家庭と協力しながら児童生徒が幸せな生活を送れるよう支援してい
きたい。

あると回答した児童の割合（％）（小学生）



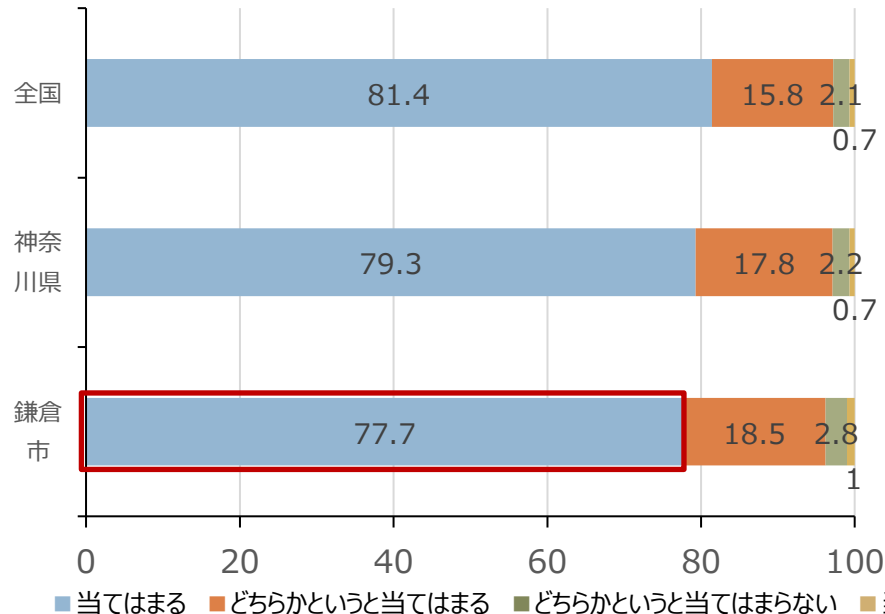
あると回答した生徒の割合（％）（中学生）



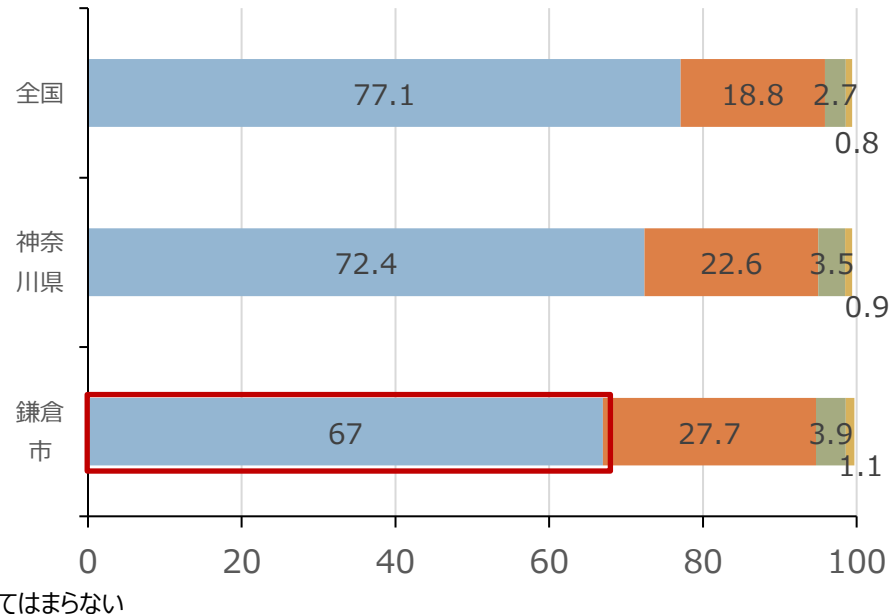
いじめはどんな理由があってもいけないと答える子ども

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校では増加したものの、全国及び神奈川県回答割合よりも低い点が特徴。人権や思いやりについての指導をさらに丁寧に行っていく必要がある。

いけないと回答した児童の割合（％）（小学生）



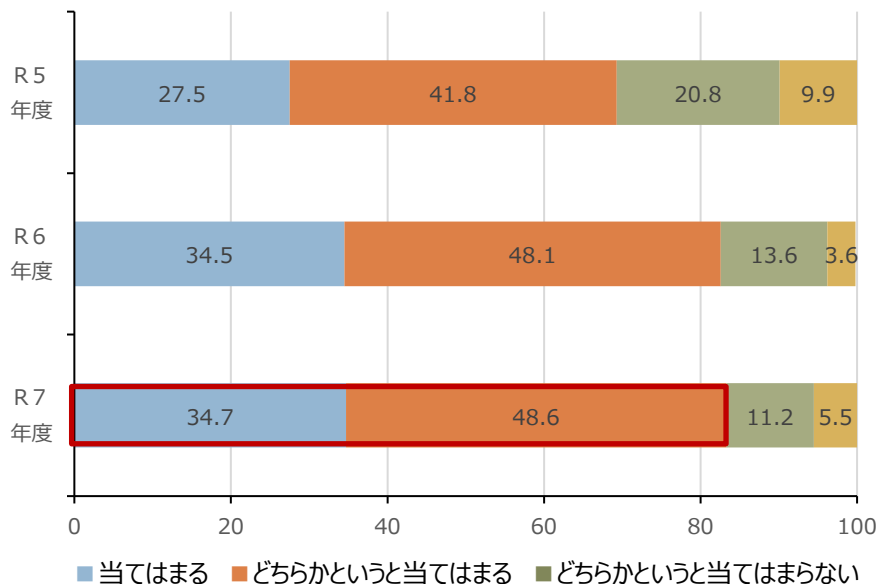
いけないと回答した生徒の割合（％）（中学生）



「地域や社会に貢献したい」と思う子どもの割合（経年比較）

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」に対して「当てはまる」「どちらかという」と当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、微増している。引き続き地域に関する理解を深め、地域社会の一員として主体的に活動できる力を育む指導に努めたい。

「地域や社会に貢献したい」と思う小学生の割合（%）



「地域や社会に貢献したい」と思う中学生の割合（%）

